

片麻痺について

慶應義塾大学看護医療学部
森田夏実

脳卒中とは

- 脳卒中 脳血管障害
 - ストローク (stroke)
 - ブレイン・アタック (brain attack)
- 種類
 - 脳出血、くも膜下出血
 - 脳梗塞

脳卒中の主な病因

- くも膜下出血
 - 脳動脈瘤(90%)
 - 動静脈奇形(10%)
- 脳出血
 - 高血圧
- 脳梗塞
 - 血管系および心臓の疾病

脳卒中の危険因子

- 脳出血の危険因子
 - 高血圧
 - コレステロール低値
 - 低蛋白血症
 - <血管がもろくなる>
- 脳梗塞の危険因子
 - 加齢
 - 脱水
 - 糖尿病
 - 通風
 - 高脂血症
 - 喫煙

脳卒中の症状(1)

- 手足が動かない
- しびれる
- 身体のバランスがとれない
- 呂律(ろれつ)が回らない
- しゃべれない/ことばが理解できない
- 物が2つに見える

- 意識がなくなる
- めまい
- 激しい頭痛

専門家スキルアップ

5

片麻痺 (運動障害)

- 右側の脳病変 左側の麻痺
- 左側の脳病変 右側の麻痺

専門家スキルアップ

6

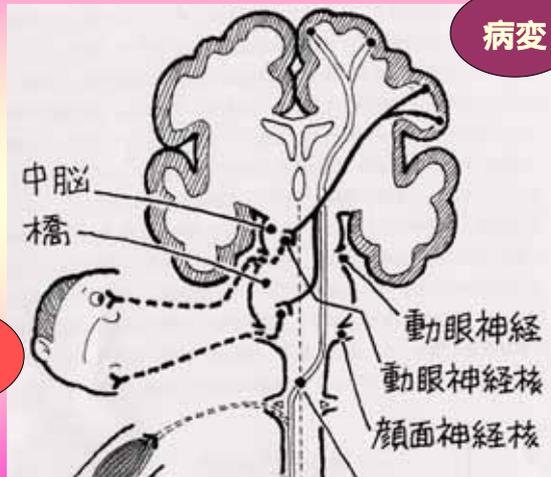
脳からの神経経路

右側

左側

症状

病変



専門家スキルアップ

7

左片麻痺患者の立位

麻痺側に倒れる



専門家スキルアップ

8

左片麻痺患者の座位



専門家スキルアップ

9

感覚障害

- 手足のしびれ(異常感覚)
- 温度、痛みの感覚が鈍い
- 自覚がないことがある

専門家スキルアップ

10

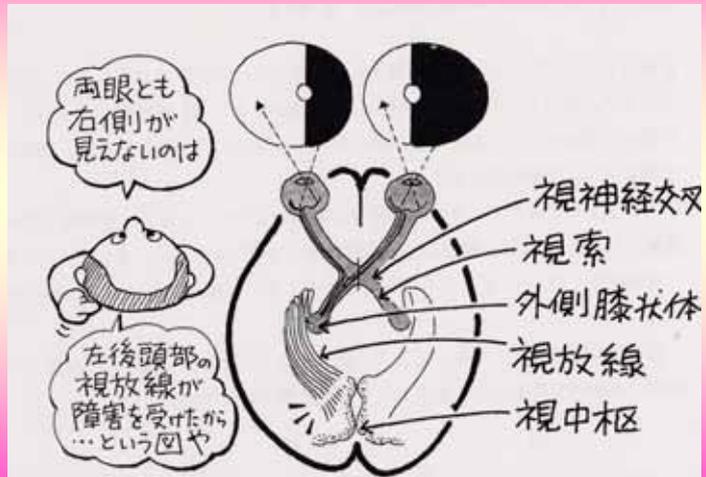
構音障害

- 言葉がはっきり発音できない
- 言葉の内容や理解力は障害されない

視野・視力障害

- 病変と反対側の視野欠損
 - 右側の病変 左側の麻痺
 - 左側の病変 右側の麻痺

同名半盲の起こる仕組み



専門家スキルアップ

13

半側空間無視



専門家スキルアップ

14

摂食・嚥下障害

- 食べ物がのみこめない
- 食べることができない
 - 脳卒中の半数で障害あり(数週間で改善)
 - 5%は慢性期まで残る。
 - (誤嚥・肺炎)
- むせやすい

脳卒中の症状(2)

- 失語症
- 失行
- 失調
- 不随意運動
- 半側空間麻痺
- 痴呆
- 排尿障害
- うつ状態
- 感情失禁
- 感情障害
- 意欲障害
- 知能障害
- 注意障害
- 易疲労性
- 神経症的傾向
- 人格障害
- 肩・腰・膝の痛み

高次脳機能

- 知覚、認知、
- 行動のプランニングとプログラミング
- 言語、記憶、注意

などの統合的機能

高次脳機能障害(1)

- 失語症
 - 聞く、読む、理解するが 話せない
 - 話し方はなめらかだが、聞いて理解できない
- < 障害された脳の部位によって様々な種類の失語症 >

右利きの人々の左大脳半球の機能分化



専門家スキルアップ

19

高次脳機能障害(2)

- 失行

行為の目的はわかるが、行えない

(運動麻痺・失調はない)

専門家スキルアップ

20

高次脳機能障害(3)

- 失認

対象の認知ができない

(視覚、聴覚などに障害がない)

高次脳機能障害(4)

- 失調

- 協調性が障害され、正確に効率良く運動できない状態

- 不随意運動

- 自分の意志とは無関係の動作

- 半側空間麻痺

- 大脳半球病変の反対側にある体外空間を無視する症状

その他の症状

- 痴呆（脳血管性痴呆）
- 排尿障害（尿失禁）
- 肩の痛み
- 腰痛・膝痛

介助に際しての留意点(1)

- 片麻痺は、ただ片手片足が動かないだけではない。バランスもとれない。
- 麻痺側は筋力、支持力も低下するので、脱臼に注意する。
- 外から見えない障害に常に配慮する必要がある。
- 症状は障害によって、多くのバリエーションがあるので、その人の障害を理解する。

介助に際しての留意点(2)

- 脳卒中の発症からの経過によって、その人の障害の受け入れの段階が異なる。
- 一番辛いのは、その方である。
- 介助は、ゆったりと余裕を持っておこなう。
- 決して急がせない。

介助に際しての留意点(3)

- 再発のおそれを抱いていることを理解する。
- 血圧が高くなる行為を避ける。
(例えば、入浴:熱すぎる湯は×)
- 介助しながら、身体や気持ちの観察をおこない、気づいたことは、家族やチームメンバーに伝えて対応する。

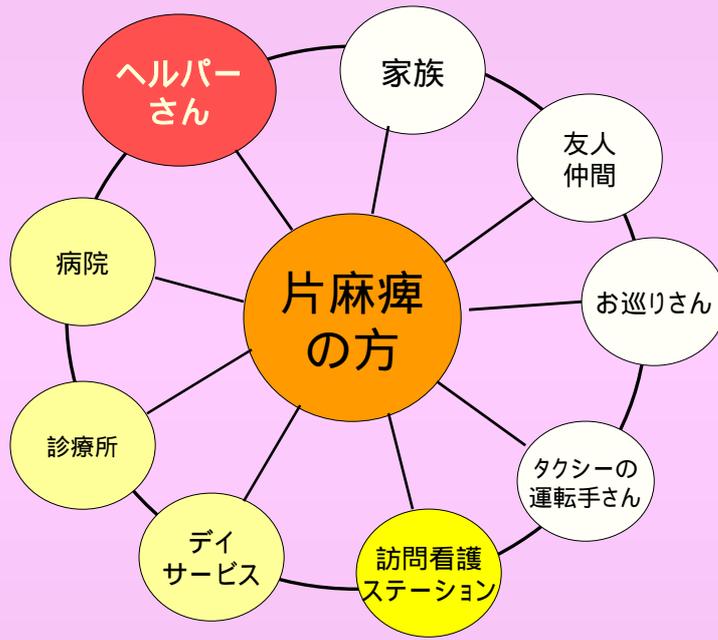
介助に際しての留意点(4)

- 痴呆症のかたに対して
 - 病人としての高度な役割を期待しすぎない
 - 「どこか具合の悪い」と感じていることに対応しよう
 - 名前を呼ぼう
 - 感情面での敏感な感受性を無視しない
 - 変化に便簡易反応することを見過ごさない
 - 手を出す前に口を出さない
 - 複雑な支持ことば、禁止ことばを使いすぎない

介助に際しての留意点(5)

- セクシュアリティ
 - 日常生活において性は充実した生活の重要な一面である。
 - 利用者の性的行為への対応(特に男性)
 - 「いやらしい」と拒否しない。
 - 言語で理解できる場合は、性の不満や対処法について話題にしてきちんと話しあう。
 - 配偶者がいる場合は、配偶者と話し合っ

チームで看護介護



専門家スキルアップ

29